

## 南北両極の氷床コアに含まれる塩微粒子の分布と化学組成 —Termination I における大気エアロゾルの変動との関係—

櫻井俊光 (北海道大学大学院環境科学院)、飯塚芳徳、堀川信一郎 (北海道大学低温科学研究所)、Sigfus Johnson、Dorthe Dahl-Jensen、Jørgen Peder Steffensen (コペンハーゲン大学)、本堂武夫 (北海道大学低温科学研究所)

氷床コア解析において、堆積後に変質しない不溶性エアロゾルとは異なり、水溶性エアロゾルは、可溶なので相状態を変えている可能性があったため、存在が不明瞭だった。近年、南極 DF コアから、水溶性の多くが氷中で硫酸塩などの固体の塩微粒子として存在していることがわかった。本研究は、南極 DF コアと北極 GRIP コアを用いて、特に硫酸塩の化学組成が DF コアの各気候区分で異なる原因と、南北の違いを究明することを目的とした。その結果、GRIP コアにも  $\text{CaSO}_4$  を主成分に塩微粒子が含まれ、両極共に化学組成が異なる原因は、 $\text{Ca}^{2+}$ 濃度に依存していることがわかった。